



野球場 やサッカー場で、大地震にあったらどうするの

ほかの場所に比べて、わりあい安全

野球場 やサッカー場は、地震に対して、たえられるような、じょうぶな造りになっています。1995年1月に起こった、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、甲子園球場は、少しこわれただけでした。

野球場 やサッカー場は、ふつう、地震のゆれで、上から落ちてくる物は、あまりありません。また、ふつう、火事が起こることも、考えられません。地震が起こったとき、ほかの場所に比べて、わりあい安全な場所です。

場内アナウンスの指示にしたがう

野球場 やサッカー場には、何万人という、たくさんの人が、集まっています。地震が起こったときに、いちばんおそろしいのは、人々が地震におどろいて、勝手な行動をとることです。

階段や出入り口に、たくさんの人が、一気におしよせ、おしつぶされたりして、大混乱になります。このようになると、けが人が多く出たり、中には、死ぬ人も出てくるおそれがあるので、あわてないことです。

場内のアナウンスに、耳をかたむけて、自分の席からはなれないで、アナウンスの指示にしたがうようにします。(監修・国司 真)

